

名東区医師会会長 竹内東洋先生の記事が 愛知医報に掲載されました。

【地区だより】 名古屋市名東区医師会

竹内内科 院長 竹内 東洋 先生

令和7年6月2日、国の特別天然記念物のニホンカモシカが住宅街にある名東区の公園に出現しました。見物のため多くの人が集まりカモシカもおびえている様子でした。その後カモシカは捕獲されけがをしていた足に治療を施された後、無事に山に帰されたようです。山のない名東区にどこからどうやってきたのかわかりませんが、さすがに中区や中村区にはやってこないのではないかと思います。

そんな未だにのどかさが残る名東区は名古屋の一番東に位置し、昭和50年2月1日に千種区から分区して誕生しており、天白区と並んで今でも名古屋市内で最も新しい区です。

「名東区は自然豊かで、生活施設や交通アクセスが充実していて、静かで治安が良く、子育てにも適している」とか何とか言われてきましたが、ずっと住んでいると今ひとつピンときませんし、名東区もだんだんと年を重ねて名古屋市の他区と同様に円熟味が出てきた印象です。

令和7年2月1日区制50周年を迎え、同日盛大に式典が行われました。名東区マスコットキャラクター勝家君のイラストに区民の写真を貼って完成したモザイクアートが展示され、また高校野球で有名な東邦高校の東邦マーチングバンドによる記念ミニコンサート

で盛り上がり、青色発光ダイオードでノーベル賞を受賞した名東区在住の天野浩名古屋大学教授の記念講演に魅了されました。

名東区は名古屋のベッドタウンとして発展し、区誕生当時8万人だった人口は10年余りで15万人に達しましたが、さすがに飽和状態なのか現在は人口16万人余でここ6年はほぼ横ばいか微減が続いています。

名東区誕生から1年遅れて発足した名東区医師会は来年4月に50周年の節目を迎えます。発足当初65名だった会員は今でも少しずつですが増加していて、令和7年6月現在A会員133名、B会員120名、C会員0（名東区は大きい病院がないので研修医がいません）の計253名と、当初の4倍近くになっています。名東区の医療事情は50年で進歩してきているようです。

現在、当医師会でも他地域同様に高齢者福祉対策の必要に迫られ、数年前より在宅、認知症、介護に本格的に力を入れています。特に多職種連携研修会は当医師会の担当副会長の労もあって、他地域と比べても勝るとも劣らないのではないかと自負しています。年に3回、東名古屋病院様、メイトウホスピタル様、木村病院様にそれぞれ持ち回りで面白いテーマを考えて頂いていて、100名近い文字通

り多職種の面々が一堂に会し、一つのテーマをみんなで学び、討論し、そのあと懇親会へと続きます。

名東区出身の有名人といえば、まずはマスコットキャラクターにもなっている戦国武将の柴田勝家、そのほかには俳優の滝藤賢一さん、フィギュアスケートの浅田真央さんなどがいます。今後この人たちを超える有名人が

名東区から誕生することを期待しています。

その候補となりうるのが、今年宝塚歌劇団に入団された千隼悠(ちはやゆう)さんではないかと勝手に考えています。名東区の小中学校出身で私の患者さんのお孫さんです。なんと今年宝塚音楽学校を首席で卒業されたそうで、是非一度観劇したいと思っているところです。

(文責：会長 竹内東洋)

愛知医報

2025年(令和7年)9月15日(毎月1.15日発行) 第2246号

今号のメインテーマ

- 第19回男女共同参画フォーラム.....2
- 小児CKD(慢性腎臓病)対策講習会.....8
- 令和6年 愛知県における急性心筋梗塞システムの実績調査...14

トピックス

- 第13・14回(定例)理事会.....19
- 名古屋市名東区医師会 地区だより.....24
- サンダース軍曹のリーダーシップ 勤務医部会だより.....25
- 医薬品をめぐる最近の諸問題 調査室だより.....27
- 令和6年度事業報告の認定並びに同決算及び同歳計剰余金処分にかかる議決等について 医師国保.....34
- 久屋併連.....42



「尾張津島天王祭〜尾張津島秋まつり」 津島市医師会

発行所 愛知医報社 〒460-0008 名古屋市中区栄四丁目14-28 愛知県医師会内 編集兼発行人 橋本 秀明
 【編集所】〒465-0031 名古屋市東区平河一丁目13-22
 電話(052)241-4136 FAX(052)241-4130 <http://www.aichi-med.or.jp/>
 (R)2024(愛知医報社)発行

令和7年9月15日 毎月1.15日発行 愛知医報 第2246号

地区だより

名古屋市名東区医師会

令和7年6月2日、国の特別天然記念物のニホンカモシカが住宅街にある名東区の公園に出現しました。見物のため多くの人が集まりカモシカもおびえている様子でした。その後カモシカは捕獲されけがをしていた足に治療を施された後、無事に山に帰されたようです。山のないう名東区にどこからどうやってきたのかわかりませんが、さすがに中区や中村区にはやってこないのではないかと思います。

そんな未だにのどかき名東区は名古屋の一番東に位置し、昭和50年2月1日に千種区から分区分して誕生しており、天白区と並んで今でも名古屋市内で最も新しい区です。

「名東区は自然が豊かで、生活施設や交通アクセスが充実していて、静かで治安が良く、子育てにも適している」とか何とかわかれてきましたが、ずっと住んでいると今ひとつピンと来ませんし、名東区もだんだんと年を重ねて名古屋市の他区と同様に円熟味が出てきた印象です。

令和7年2月1日区制50周年を迎え、同日盛大に式典が行われました。名東区マスコットキャラクター勝家君のイラストに区民の写真を貼って完成したモザイクアートが展示され、また高校野球で有名な東邦高校の東邦マーチングバンドによる記念ミニコンサートで盛り上がり、青色発光ダイオードでノーベル賞を受賞した名東区在住の天野浩名古屋大学教授の記念講演に魅了されました。

名東区は名古屋のベッドタウンとして発展し、区誕生当時8万人だった人口は10年余りで15万人に達しましたが、さすがに飽和状態なのか現在は人口16万人余でこ6年ほどはほぼ横ばい状態が続いています。

名東区誕生から1年遅れて発足した名東区医師会は今4月に50周年の節目を迎えます。発足当初65名だった会員は今でも少しずつ増加していて、令和7年6月現在A会員133名、B会員120名、C会員0(名東区は大きい病院がないので研修医がいまません)の計253名と、当初の4倍近くになっています。名東区の医療事情は50年で進歩してきているようです。

現在、当医師会でも他地域同様に高齢者福祉対策の必要に迫られ、数年前より在宅、認知症、介護に本格的に力を入れています。特に多職種連携研修会は当医師会の担当副会長の労もあって、他地域と比

べても勝るとも劣らないのではないかと自負しています。年に3回、東名古屋病院様、メイトウホスピタル様、木村病院様にそれぞれ持ち回りで面白いテーマを考えて頂いて、100名近い文字通り多職種の面々が一堂に会し、一つのテーマをみんなで学び、討論し、そのあと懇親会へと続きます。

名東区出身の有名人といえば、まずはマスコットキャラクターにもなっている戦国武将の柴田勝家、そのほかには俳優の滝藤賢一さん、フィギュアスケートの浅田真央さんなどがいます。今後この人たちを超える有名人が名東区から誕生することを期待しています。

その候補となりうるのが、今年宝塚歌劇団に入団された千隼悠(ちはやゆう)さんではないかと勝手に考えています。名東区の小中学校出身で私の患者さんのお孫さんです。なんと今年宝塚音楽学校を首席で卒業されたそうで、是非一度観劇したいと思っているところです。



名東区50周年記念
区民の笑顔がひろがるモザイクアート
(文責：会長 竹内東洋)